

明治期の弁護士活動、及び司法の現実や社会  
状況を克明に記す、日本弁護士活動歴史史料。

# 日本弁護士協会録事

明治編 全31巻・別巻1

監修

岩谷十郎

慶應義塾大学法学部教授

村上一博

明治大学法学部教授

三阪佳弘

大阪大学高等司法研究科教授

ゆまに  
書房 YUMANI  
SHOBOU

# 「法律ノ発達、人權ノ伸張ヲ図ル……」。日本近代草創期の弁護士活動記録

## 「日本弁護士協会録事」刊行にあたって

大阪大学高等司法研究科教授 三阪佳弘

日本弁護士協会は、一八九六年六月に東京弁護士会の鳩山和夫、菊池武夫、磯部四郎、岸本辰雄らが発起人となって東京で開かれた創立総会を経て、翌年の創立大会で発足した。

戦前日本の弁護士は、制度的に司法官より一段低いものとして、政府・司法省の厳しいコントロールのもとに置かれていた。しかし、このことは、戦前の弁護士層をして、在朝法曹である司法官との対抗関係で、「在野法曹」としての職業的威信を「法律ノ発達、人權ノ伸張ヲ図ル」（鳩山「日本弁護士協会ノ任務」『録事』一号）こと、支配体制に対抗して抑圧された国民の救済と権利実現に見出させることになった。この伝統は戦後日本の職能団体としての弁護士組織が基本的人権の擁護と社会正義の実現に強くコミットする歴史的基盤となっている。

こうした日本の弁護士のあり方を歴史的に探っていくとき遭遇するのは、高木益太郎を中心とした『法律新聞』と、日本弁護士協会による『日本弁護士協会録事』（後に『法曹公論』）との二誌による弁論活動である。いずれも、明治憲法体制が一応の確立を見て、法典編纂事業の見通しがついた一八九〇年代後半に発刊され、明治後半期から昭和戦前期にかけて、その時々々の立法、司法制度、政治に関する評論・研究、外国法研究、判例批評、法曹界情報等々が収録されており、「在野法曹」としての弁論活

動・「公論」形成を支えてきた。

この二誌を読み比べると、いくつかの点で共通性とともに力点の違いが見られる。

とりわけ明治期においては、高木を中心とした編集部による法律・司法をめぐる評論と判例速報を中心に構成された『法律新聞』に対して、『録事』は、毎月開催される日本弁護士協会評議員会の立法・司法制度に関する一定のテーマ（たとえば、捜査機関の聴取書問題、司法省廃止の是非、司法官養成問題等々）についての討論記録を中心としていた。法律、司法制度をめぐる動きを速報する『法律新聞』に対して、その時々々のアクチュアルなテーマについての弁護士層の様々な意見のぶつかり合いの中から一定の弁護士層の「公論」が形成されることを目指していたのが『録事』である、という見方もできるかもしれない。たとえば、小田中聰樹『刑事訴訟法の歴史的分析』（日本評論社）は、このような『録事』が果たした弁護士層の一定の「公論」形成という機能に着目して、刑事訴訟法の歴史分析の面で『録事』を活用した代表的な研究である。

大正期昭和期になると、明治期のような一定のテーマについての討論記事を中心にした構成から、個別の弁護士による評論・論説記事が中心となるが、上記のような『法律新聞』と『録事』の「役割分担」は変わらない。と

はいえ、アクチュアルな立法、法改正の動きについては、両者は協同して特集記事を組んだり評論活動を展開している。とくに、大正後半期以降、原嘉道や花井卓蔵、小川平吉、鶴澤総明など有力弁護士が政界に進出し、政府に対して影響力を持つ段階になると、立法・法改正・司法制度改革を検討する上で、『録事』に掲載される弁護士層の論説は不可欠の資料となっている。

さらに大正昭和期の『録事』の編集として、その時々々の立法・法改正や重要な裁判事件等についての詳細な情報を掲載した特集記事が目を引く。伏石事件（「高松人權蹂躪事件」）の特集では、協会理事自らが現地に入って聞き取りを行い、人權侵害的な捜査の実態を明らかにしている。その他にも、全国的な弁護士に対して、捜査検察機関による人權侵害の捜査実例を提出するように求めた結果できあがった捜査にかんする全国調査結果特集、同じように、弁護士人口の過剰による弁護士の窮乏化を統計的に特集した記事（「全国弁護士経済統計」、あるいはとくに昭和期にはいと重要な立法・法改正について、座談会という形で、司法当局および司法官をまじえた特集記事、弁護士問題座談会、新民事訴訟法座談会等がある。戦前日本の法制度の実体を知るうえで、その担い手の一方の極であった弁護士層の視点からの『録事』の様々な情報は、大変興味深いものであるといえよう。

推薦します

## 弁護士活動の歴史を知る不可欠の資料

東京大学名誉教授

利谷信義

日本弁護士協会は、会員の親睦、司法制度の発達、法律適用の適正を図るため、明治三十（一八九七）年二月、東京神田で創立された。「日本弁護士協会録事」（三百十三号以降「法曹公論」と改題）はその機関誌である。第一号の巻頭言は、在野法曹が法律問題を論ずる唯一の機関として、筆鋒の向かう所天下に敵なしと抱負を述べた。磯部四郎、鳩山和夫、岡村輝彦などが幹事として協会の運営と「録事」の編集に、井本常治、花井卓蔵、原嘉道などが編輯主事として実務に当たった。いずれも有力にして高名な弁護士であった。

協会が創立されたのは、法典編纂と不平等条約の改正により、内外ともに近代日本の法体制が確立しようとした時期に当たる。このとき、在野法曹は国民の人権擁護をその使命として自覚し、当時の弁護士総数一五〇七名の46パーセントに当たる六九六名が全国的活動を目指して協会に結集した。全国各地の人権蹂躪事件に対する迅速な対応、司法制度に対する適切な改革の提起、裁判・検察・警察の実務に対する鋭い批判など協会の活動は目覚しく、陪審法の実現もそれなしにはありえなかった。この協会は、第二次大戦により、昭和十九（一九四四）年二月に解散したが、それまでの活動の全容は、「録事」によって明らかである。戦前の弁護士の活動、司法の現実、さらには社会状況を知るための不可欠の資料として、「録事」の購読をお勧めしたい。

## 本書の特色

- 明治26年、弁護士法が施行後、結成された最初の全国的な弁護士団体である日本弁護士協会の機関誌。
- 司法実務における弁護士の存在を強くアピールする機関誌として大いに注目された。
- 「日本弁護士協会録事」の刊行は、弁護士会の自治権獲得への記念碑的な第一歩と評価される。
- 明治中期から大正にかけての日本の司法実務の充実とその変化をクロノロジカルに、かつ、詳細に記録。
- 日本における法曹集団—裁判官・検察官・弁護士の「発生」と、その「生態」「実相」を読みとることができる。
- 弁護士の地位向上と自己改良、陪審法など刑事法の改正や司法制度全般の諸問題などが取り上げられ、在野法曹たちが関心を抱いたその時々のトピックが記される。
- 別巻として詳細な解説を付す。

# 日本弁護士協会録事 明治編

全31巻・別巻1

[監修] 岩谷十郎／村上一博／三阪佳弘

A 5 判上製・函入・平均650頁 ISBN4-8433-1567-2 C3332

## 第1回配本 全11巻

●揃定価254,100円 (本体242,000円) ISBN4-8433-1568-0 C3332

|      |                     |                         |                                        |
|------|---------------------|-------------------------|----------------------------------------|
| 第1巻  | 日本弁護士協会録事 第1号～第5号   | 明治30(1897)年7月・9月～12月    | 定価23,100円(本体22,000円) ISBN4-8433-1569-9 |
| 第2巻  | 日本弁護士協会録事 第6号～第10号  | 明治31(1898)年1月～5月        | 定価23,100円(本体22,000円) ISBN4-8433-1570-2 |
| 第3巻  | 日本弁護士協会録事 第11号～第16号 | 明治31(1898)年6月・7月・9月～12月 | 定価23,100円(本体22,000円) ISBN4-8433-1571-0 |
| 第4巻  | 日本弁護士協会録事 第17号～第22号 | 明治32(1899)年1月～6月        | 定価23,100円(本体22,000円) ISBN4-8433-1572-9 |
| 第5巻  | 日本弁護士協会録事 第23号～第27号 | 明治32(1899)年7月・9月～12月    | 定価23,100円(本体22,000円) ISBN4-8433-1573-7 |
| 第6巻  | 日本弁護士協会録事 第28号～第33号 | 明治33(1900)年1月～6月        | 定価23,100円(本体22,000円) ISBN4-8433-1574-5 |
| 第7巻  | 日本弁護士協会録事 第34号～第38号 | 明治33(1900)年7月・9月～12月    | 定価23,100円(本体22,000円) ISBN4-8433-1575-3 |
| 第8巻  | 日本弁護士協会録事 第39号～第43号 | 明治34(1901)年1月～5月        | 定価23,100円(本体22,000円) ISBN4-8433-1576-1 |
| 第9巻  | 日本弁護士協会録事 第44号～第49号 | 明治34(1901)年6月・7月・9月～12月 | 定価23,100円(本体22,000円) ISBN4-8433-1577-X |
| 第10巻 | 日本弁護士協会録事 第50号～第54号 | 明治35(1902)年1月～5月        | 定価23,100円(本体22,000円) ISBN4-8433-1578-8 |
| 第11巻 | 日本弁護士協会録事 第55号～第60号 | 明治35(1902)年6月・7月・9月～12月 | 定価23,100円(本体22,000円) ISBN4-8433-1579-6 |

## 第2回配本 全10巻

●揃定価231,000円 (本体220,000円) ISBN4-8433-1580-X C3332

|      |                       |                         |                                        |
|------|-----------------------|-------------------------|----------------------------------------|
| 第12巻 | 日本弁護士協会録事 第61号～第66号   | 明治36(1903)年1月～6月        | 定価23,100円(本体22,000円) ISBN4-8433-1581-8 |
| 第13巻 | 日本弁護士協会録事 第67号～第71号   | 明治36(1903)年7月・9月～12月    | 定価23,100円(本体22,000円) ISBN4-8433-1582-6 |
| 第14巻 | 日本弁護士協会録事 第72号～第77号   | 明治37(1904)年1月～6月        | 定価23,100円(本体22,000円) ISBN4-8433-1583-4 |
| 第15巻 | 日本弁護士協会録事 第78号～第82号   | 明治37(1904)年7月・9月～12月    | 定価23,100円(本体22,000円) ISBN4-8433-1584-2 |
| 第16巻 | 日本弁護士協会録事 第83号～第88号   | 明治38(1905)年1月～6月        | 定価23,100円(本体22,000円) ISBN4-8433-1585-0 |
| 第17巻 | 日本弁護士協会録事 第89号～第93号   | 明治38(1905)年7月・9月～12月    | 定価23,100円(本体22,000円) ISBN4-8433-1586-9 |
| 第18巻 | 日本弁護士協会録事 第94号～第99号   | 明治39(1906)年1月～6月        | 定価23,100円(本体22,000円) ISBN4-8433-1587-7 |
| 第19巻 | 日本弁護士協会録事 第100号～第104号 | 明治39(1906)年7月・9月～12月    | 定価23,100円(本体22,000円) ISBN4-8433-1588-5 |
| 第20巻 | 日本弁護士協会録事 第105号～第109号 | 明治40(1907)年1月～5月        | 定価23,100円(本体22,000円) ISBN4-8433-1589-3 |
| 第21巻 | 日本弁護士協会録事 第110号～第115号 | 明治40(1907)年6月・7月・9月～12月 | 定価23,100円(本体22,000円) ISBN4-8433-1590-7 |

## 今後の刊行予定

### 第3回配本 全10巻・別巻1

●第22巻～第31巻 日本弁護士協会録事 第116号～第166号 明治41(1908)年～明治45(1912)年  
●別巻(解説・索引) ●揃予価254,100円(本体242,000円) ISBN4-8433-1591-5 C3332 2007年1月刊行予定



〒101-0047  
東京都千代田区内神田2-7-6  
TEL .03 (5296) 0491  
FAX.03 (5296) 0493  
<http://www.yumani.co.jp/>  
e-mail eigyou@yumani.co.jp

### ●特におすすめしたい方●

法学研究者一般、法学部図書館、ロースクール図書館 など。

ゆまに書房 Tel.03(5296)0491/Fax.03(5296)0493

年 月 日

ご注文書

日本弁護士協会録事  
明治編 全31巻・別巻1  
ISBN4-8433-1567-2 C3332

お名前

ご住所

TEL ( )

第1回配本 全11巻

揃定価254,100円(本体242,000円)

セット

第2回配本 全10巻

揃定価231,000円(本体220,000円)

セット

第3回配本 全10巻・別巻1

揃予価254,100円(本体242,000円)

セット

●全31巻・別巻1

揃予価739,200円(本体704,000円)

セット

取扱店

※毎度ありがとうございます。お申し込みはぜひ当店へ。



07.04/01.1000.H